

指定管理者評価シート			
事業名	定山溪自然の村運営管理費	所管課(電話番号)	教)生涯学習推進課(211-3872)
I 基本情報			
1 施設の概要			
名称	札幌市定山溪自然の村	所在地	南区定山溪(豊平峡ダム下流国有林野)
開設時期	平成10年6月	延床面積	1,749.71㎡(敷地面積110,198.89㎡)
目的	自然環境の中で行う自然観察、野外活動その他の活動を通して市民の自然に対する関心と理解を深めるとともに、市民の健康の増進及び交流の促進を図ることを目的とする。		
事業概要	(1) 自然体験活動のため、自然の村の施設を使用に供し、必要な指導及び助言を行うこと (2) 自然体験活動の振興及び普及を図るための各種事業 (3) 自然体験活動に関し、調査研究を行い、並びに資料を収集し、及びこれを提供すること (4) その他自然の村の設置目的を達成するために必要な事業		
主要施設	管理センター、ふれあいハウス、コテージ(10)、テントハウス(10)、普通・特別テントサイト(26)ほか		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	公募		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	①統括管理業務 ②施設・設備等の維持及び管理に関する業務 ③施設における事業の計画及び実施に関する業務 ④施設の利用等に関する業務 ⑤前各号に掲げる業務に付随する業務		
3 評価単位	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

Ⅱ 令和7年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 「野外教育施設として求められる新たな価値の創造と実現」を基本方針とし、定山溪自然の村の豊かな自然環境や環境資源を最大限に活用し、誰もが身近に自然体験活動ができるよう日々の利用者対応のほか、楽しく自然を学べるセルフプログラムの提供や、野外活動の普及のため、初心者向けキャンプ事業をはじめとした事業を実施した。 児童の体験機会の不足など社会課題に焦点を当て、子どもだけの野外における集団活動・宿泊経験の機会を提供した。 地域イベントに積極的に参画することで、近隣関係団体との信頼関係を構築した。 自然の村の活動促進に協力してくれる人材育成として、ボランティア研修会を実施し活動支援を行った。また、札幌市内で環境教育を行っているNPO団体と協働し、小学生親子を中心に自然について楽しみながら学べる機会を提供した。 施設の利用促進としては、地域の大規模事業とSNSを連動させフォロワーを増やすとともに、アウトドアショップにチラシの配架をするなど広報戦略の見直しを図った。また、利用者が安心・安全に利用できる施設として、職員による日常点検のほか、所管部局との情報交換により施設の不具合箇所を報告し、委託者及び受託者間でそれぞれ修繕を進めた。	セルフプログラムをととして、利用者が楽しく自然を学ぶ環境を構築することができている。また、体験機会創出としての児童向けキャンプなど多様な課題にフォーカスした活動を提供することができた。施設外のイベントに参画することで、施設利用者以外の広報に繋げることができた。職員による日常点検や迅速な修繕対応により利用者が安全に利用できる環境を整えることができた。	A B C D 自然に対する関心・理解を深めることや、交流促進にもアプローチできている。 また、体験機会が少ない児童向けのイベントを行うことで社会課題の解決に積極的に取り組んでいる。 今後は、施設利用者以外の広報等を行った成果が実感できるよう、集客に工夫を凝らし更なる発展へ取り組んでいただきたい。
	▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 利用案内や予約状況は、利用者がホームページから更新された情報が確認できるようシステムにより管理し、不具合があるときは速やかに対応した。施設の休業日等もホームページやSNSにて周知をした。また、事業においては、定員を超える応募があった場合、抽選を実施し公平に参加者を決定した。チェックイン受付時は番号札順に受付を行うなど平等性を保つよう努めた。	条例に基づいた承認事務を遂行したに加え、所管局及び職員間の情報共有の徹底を図ることで、施設利用および事業受付時において平等利用に配慮した対応をすることができた。	平等利用の基本方針を原則としつつ、利用者 に合った柔軟な個別対応を行っている。
	▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進 札幌市環境マネジメントシステムに則り、職員間において環境配慮にかかわる施設運営、プログラム企画について研修会を実施し、環境配慮に対する意識を高めるとともに都度、確認を行った。 また、ごみの持ち帰りに関わる案内を行うとともに施設利用時における節電等への協力を行った。各種事業をととして、再利用可能な容器や物品の使用を推進するなど、環境に配慮した運営を行った。 施設の設備等については、職員による日常点検のほか、専門業者に点検を依頼し、施設の維持に努めた。また、エネルギー管理標準に基づき、電気・ガス・水道・燃料の使用量の削減、会議資料等をデータ化し紙の使用量を削減するなど環境へ配慮した施設運営を行った。エネルギー消費量を継続的に記録し、エネルギー消費削減意識の醸成を促した。	環境に配慮した取組を行いエネルギー使用量の削減をするため、各種様式をデータ化することで紙の使用量を削減した他、使用していない部屋を消灯するなどを進めた。 また、ゴミの引き取りを開始したことにより、施設外の不法投棄などが減った。	環境配慮への意識を維持し、節電等によるエネルギー消費量の削減を実証している。その意識を利用者にも浸透させるべく引き続き取り組んでいただきたい。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

＜責任者の配置、組織の整備＞

統括管理者に財団課長職を配置し、財団本部と連携しながら業務を遂行した。

＜従事者の確保、配置＞

有期雇用職員の募集をし、従事者の確保に努めたほか、財団本部主催の正規雇用職員向け説明会へ職員を派遣するなど、財団内での連携による入社希望者の母集団獲得に努めた。

＜人材育成・研修計画＞

自然体験活動に関する専門的な指導、施設管理に伴う技術など、各業務において専門性を要する業務が多いことから、専門性の担保のため業務の引継ぎを実施することや、適宜職員研修を実施した。

施設管理に伴う技術の向上を目指し、リスクマネジメント研修、刈払機・除雪機講習、救急法研修、消防訓練を実施した。

施設利用者に向けた知識技術の向上を目指すものとして、フィールド研修、利用者提供物品研修、野外プログラム事業研修、ヒグマ対策研修を実施した。

以上の研修を計画に沿って実施し、基本研修については、計画通りすべての研修を実施した。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

毎月定例の全職員会議、担当別会議による組織内の情報共有、更新を図った。利用者アンケートなどから事業、管理における現状の把握と分析を行い、改善に向けた具体的な取組を策定し、利用者満足度の高い施設運営に取り組んだ。このほか、モニタリング調査により、より具体的なニーズや野外活動に対する意識調査を行い、今後の運営につなげる検討を行った。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

各業務において、毎月末に業務完了届を提出させ、業務検査を実施し適正に業務が遂行されていることを確認した。また、札幌市暴力団の排除の推進に関する条例に基づき、暴力団を利用することとならないよう、第三者委託及び物品購入などにおいて、暴力団及び暴力団関係事業者と契約しないよう積極的に取り組んだ。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 令和7年 7月10日	・令和6年度事業、統計報告 ・令和7年度事業計画 ・意見交換
第2回 令和8年 2月20日	・利用状況、事業実施状況報告(令和7年4月から令和8年1月まで) ・アンケート・利用者動向調査の報告および苦情などの処理状況 ・自然の村 ヒグマ対策状況報告 ・意見交換
＜協議会メンバー＞ 札幌市立義務教育学校定山溪学園副校長 石狩森林管理署定山溪森林事務所首席森林官 一般社団法人定山溪観光協会事務局長 東海大学国際文化学部地域創造学科助教 NPO法人自然教育促進会代表理事 定山溪七区町内会長 NPO法人EnVision環境保全事務所研究員 札幌市教育委員会総務部生涯学習推進課長 (公財)さっぽろ青少年女性活動協会野外施設部長 計9名	

財団課長職を配置し、その下に代理権限者である係長職を配置したほか、有期雇用職を採用することで、安定的な組織及び施設運営を行った。また、野生動物対策等の外部研修などにも積極的に参加することで職員の専門性向上に努めた。11月のヒグマ敷地内目撃時には、訓練を活かし、速やかな避難誘導を行うことができた。

施設の特性に即した専門研修を、計画通り完遂している。
また、ヒグマ目撃という不測の事態にも冷静に対処し、被害を出すことなく利用者・職員の安全を確保した点は大いに評価できる。

定例会議のほか、情報共有システムツールを活用し、連携して施設の管理運営を遂行することができた。

利用者へのアンケート等のモニタリング調査により具体的なニーズを把握した後、毎月の全体会議等ですぐにニーズの共有を図っており、管理水準の維持向上に積極的に取り組んでいる。

当財団の契約規則に沿って、契約を取り交わし、各業務ごとに業務検査を行う事で適正な遂行を確認することができた。

本市の入札参加資格者選定等を参考とし、諸契約を適切に執行している。

年2回実施した運営協議会では、アンケートの回収率や満足度の高さについて評価をいただいた。また、下の駐車場の活用や、平日の利用促進についてSNSでの情報発信など、フィールドの有効利用について助言をいただいた。

運営協議会においては、管理運営に関する協議及び調整を行うために設置されているという趣旨を鑑み、各委員から管理運営に資する意見・助言をいただくための十分な時間を確保するとともに、次年度への意見反映を可能とするため、第2回目の開催時期を早めるなどの検討いただきたい。

	▽ 財務(資金管理、現金の適正管理) 運営資金は財団事務局で集中管理しており、電算ネットワークシステムにより、適正かつ迅速に経理処理(月次・年次決算等)を実施した。事業における参加料等は可及的速やかに財団指定金融機関口座への預け入れを完了させ、資金管理を徹底して事故防止に努めた。また、内部監査を実施し、運営状況に不備がないかの第三者確認を行った。現金の取り扱いについては複数職員による確認と管理責任者の確認を行い、収入事務を適正に行った。 ▽ 要望・苦情対応 市民から寄せられたすべての要望・苦情等の他、施設利用後のアンケート調査内容を真摯に受け止め、解決に向け迅速かつ誠意ある対応をするともに、スタッフ間で情報を共有し再発を防ぐよう努めた。また、困難な事態の発生が考えられる場合は、早急に札幌市教育委員会に相談、協議を行い対応した。 なお、利用者の要望・苦情・評価については運営協議会にて報告のち、施設内にて掲示を行った。 ▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施) 年間の事業計画書をはじめとする提出書類や業務日誌等の日常の記録書類、及び統計資料等、何れも当初の計画どおり確実にデータとして保存した。また、札幌市の業務検査等に対し、誠実に対応した。利用に関するアンケート調査を継続的にを行い、事業参加者には事前事後のアンケートを実施し、それぞれ満足度を測定するとともに、意見、要望の把握に努め改善を図った。	日々の現金等取り扱いについては当財団財務規定及び金券等取扱い要領により適正な処理を行った。 利用者からの意見や要望に対し情報共有の上、誠実・公平に迅速な対応をすることができた。 各記録書類、統計書類の整備に努めた。また業務・財務監査等も適正であると回答を得た。	業務検査においても特段の問題はなく経理処理されているため、引き続き適切な管理を遂行していただきたい。 利用者からの要望への対応を施設内に掲示することにより、他の利用者へ周知している点が良い。 データ等は適切に保管されており、アンケート結果分析によって判明した意見要望に対し、改善を施している。
(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む) ＜労働関連法令の遵守、雇用環境の維持向上＞ 当財団では、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法等の労働関係法令を遵守するとともに、厚生労働省ストレスチェック制度の導入及び職員のためのメンタルヘルス相談窓口を開設し(産業カウンセラー)、雇用環境維持に努めた。	男性職員の育児取得の実績があったほか、メンタルヘルス相談窓口等の設置にて雇用環境維持を図ることができた。	A B C D 管理運営体制は適切であり、男性職員の育児休業取得推進やメンタルヘルス相談窓口開設等により、雇用環境維持を図っている。
(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入) 基本方針に則り、日常点検により対応が必要な個所の早期発見を行い迅速に対応するとともに、高度な技術が必要な作業は有資格者に委託し利用者の安全維持に努めた。 拾得物の管理は台帳記載、保管まで適正な管理を行った。災害・緊急対策として、連絡体制を確立し全ての職員が緊急時対応ができるよう務めることで、市民サービスの向上へ配慮する運営体制を確保したとともに、各種保険に加入し事故等における保障に備えた。	利用者の安全確保を優先的視点として、日々の点検にて安全管理の徹底を行ったほか、緊急時連絡体制を整え、各種保険に加入し安全な環境を提供することができた。	A B C D 日常点検による改善必要箇所の把握に努め、適宜修繕を行っている。 また、職員の入替があっても緊急時対応ができる体制を整えている。

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

①清掃業務

村内の建物及び主要箇所の日常清掃、ワックス掛けやガラス清掃等の定期清掃は専門の清掃会社に委託し実施した。また、巡回点検により臭いや突発的な汚れに対処し、衛生管理に努めるとともに、利用者に対しても原状回復への協力を求めた。

②警備業務

夜間警備や駐車場警備、年末年始を含めた休業日等の警備など主たる警備業務は専門の警備会社に委託し実施した。また、事故や自然災害など不測の事態に対しては、緊急連絡体制を整備、その対応に備えた。

③施設及び設備の保守点検業務

設備点検業務については以下の項目毎に実施した。自家用電気工作物保守点検など専門技術を要するものについては、専門業者に委託して実施し、そのほかは指定管理者が日常業務として実施した。各施設が正常に機能していることの確認は、基本的に巡回点検によって実施した。また、利用者や清掃員などからの具体的な機能低下の報告に対し、迅速に対処した。主な施設のほか付帯施設を含めた総合的な保守点検については、指定管理者の巡回点検により実施し施設の細部に至るまでの状況把握に努めた。

ア 電気設備保守業務

Ⅰ電気保安業務(日常点検として指定管理者が実施した)

Ⅱ館内外放送設備保守管理 (")

Ⅲ館内外照明設備保守管理 (")

Ⅳ自家用電気工作物保守点検業務

(第三者委託、定期点検を毎月1回、年次点検を1回 10月)

イ機械設備保守業務

Ⅰ給湯設備保守点検 (日常点検として指定管理者が実施した)

Ⅱ換気設備保守点検 (")

Ⅲ給排水設備保守点検 (")

Ⅳ受水槽清掃、11項目の水質検査、汚水槽清掃、汚水ポンプ清掃・点検(年1回、6月)

Ⅴ受水槽外観、給排水ポンプ、遊離残留塩素測定 of 各法定点検(毎週金曜日に指定管理者が実施)

Ⅵ給湯ボイラー設備保守点検業務(年3回 7月、11月、2月)

ウ消防設備保守業務

消防設備点検については専門的技術を要することから専門業者に委託し、保守点検を実施した。(年2回 7月、2月)

エ建築設備点検業務(年1回 2月)

オ施設保守点検

清掃業務については利用者アンケートでも満足度が高い評価を得ており、施設の美化の維持が保たれている。また警備業務については宿直職員と連携し日々の安全な環境を保っている。

各種保守点検業務や修繕などの専門の業者への委託については、事前に綿密な打ち合わせや履行後に報告事項を共有するなど、委託業務についても十分確認をするなど適正に進めることができた。

①常に清潔に保たれており、アンケート結果からもその満足度の高さが伺える。
②業者との仕様の共有がなされているため、安全管理が継続されている。
③施設職員で可能な点検は積極的に行い、専門技術が必要なものは委託をするなど、日々適切に処理している。

	④修繕業務 各施設、施設設備については利用者が安全に使用できる環境を整備するため、また運営における施設管理上必要な物については、迅速に修繕対応を行い、不備のないように努めた。 ⑤備品管理業務 利用施設の備品については日常点検を行い、故障については代用品の確保や修理など利用者が支障をきたさないよう努めた。 ⑥駐車場警備 繁忙期の駐車状況把握し車両誘導等を行い、事故防止や利用者の円滑な活動の確保に努めた。 ⑦外溝緑地管理業務 植栽や防虫消毒管理については、冬期間の降雪時期を除き指定管理者が実施した。時期的に大量発生し、不快感や直接害を及ぼすカメムシやアリなどについては、忌避剤や防虫剤を常備し、随時対処した。また、人体ショック症状等の危険を伴うスズメバチに対しては、村の外周に巣を作る前の季節から捕獲器を配置し、村内への侵入防止に努めた。 ⑧除雪業務 駐車場及び村内主要道路については、専門業者に委託して実施した。また、各施設周りや主要活動場所等については指定管理者が除雪し、屋根の雪下ろし、各施設の雪庇落とし及び落雪危険箇所の立ち入り制限なども併せて実施した。 ⑨その他施設の維持に必要な業務 各種備品の保守点検や公用車の維持管理及び各施設周りの草刈り管理等は、必要に応じて指定管理者が実施した。また、施設の雪や氷の影響に対する補強及び風や低温に対する防護など越冬対策を確実に実施した。 ▽ 防災 年に2回消防訓練を行った。職員体制が少人数の場合の火災発生、夜間の宿直者と警備員のみが勤務している火災を、また大地震のあとの火災など様々なケースを想定し、消防への通報(模擬)や村内放送、避難誘導、宿泊者チェックなどの一連の流れを模擬訓練として実施した他、細かい部分についての確認や質疑応答などを行うことで、職員全員で危機管理意識を高めた。同様にヒグマ出没時における職員連携や避難誘導、事後対応などの訓練もあわせて実施した。	修繕業務については日常点検時に発見した場合、軽微なものは施設職員が、専門技術が必要なものは専門業者に速やかに依頼し対応したことで、施設の維持に努めることができた。 除雪業務については、日々職員が実施するとともに、専門業者との委託契約を結び、施設運営に支障が出ないよう遂行した。 各種訓練を通して職員全員が日々危機管理意識をもって運営することができた。また、防災、ヒグマ出没時における避難訓練とともに、具体的な対応について職員間で共有していたため、不測の事態にも冷静に対応することができた。利用者の安心安全を確保する運営をすることができた。	④利用者の安全を第一に、迅速に対応している。 ⑤適宜点検管理を行い、利用者へ影響がないよう努めている。 ⑥満室日でも駐車場誘導が適切で苦情もない。 ⑦スズメバチ対策について、巢作り前から可能な限りの対処をしており、侵入の抑制に努めている。 ⑧除雪契約範囲外は全て職員が除雪し、利用者には支障がないよう努めている。 ⑨特に草刈り管理は、ヒグマ対策(緩衝帯確保)として非常に重要な作業であり、引き続き取り組んでいただきたい。 毎年定例的なものとしてではなく、起こり得る状況をその都度設定して訓練を行っており、発生状況に則した行動をとることができる体制を整えている。
--	---	--	---

(4)事業の計画・実施業務

▽ 自然体験活動のため、自然の村の施設を使用させ、必要な指導助言を行う業務

事業名	回数等(回)	参加人数(人)
貸室事業	通年	15,574名
「気づきと学び」プログラム提供事業	通年	641名
ガイドプログラム提供事業	通年	1,333名
アウトドアクッキングプログラム提供事業	通年	761名
教育機関利用提案・支援事業	宿泊1校 日帰り2校	宿泊17名 日帰り34名
利用提案・支援事業	12団体	326名
アウトドアスタイル提案事業	4回	70名
社会的課題解決事業	4回	82名

「気づきと学び」をテーマに村内での既存のプログラムのほか、野鳥や生き物をテーマにした新たなプログラムを企画実施したことで、自然の大切さや面白さを楽しみながら知る機会を提供することができた。また、アウトドア提案事業については、企業と連携した焚き火体験会を行い、社会課題解決事業では、青少年山の家と連携し両施設を利用したキャンプ事業を通して子どもたちの体験機会の提供と自己肯定感を高めることを目的に新たな事業形態を展開することができた。

A	B	C	D
	貸室事業目標値20,000人からの乖離は、天候やキャンプ人気平常化またヒグマ目撃等の外的要因もあり致し方ない部分があるものの、他の事業は特段の阻害要因がなく目標値との乖離が大きいものがあった。		
	目標値を大きく上回るものもあり良い部分はあるが、目標を下回ったものについては目標値に近づける方法を検討する必要がある。		

▽ 自然体験活動の普及振興に関する業務

事業名	回数等(回)	参加人数(人)
初心者向けアウトドア体験事業	2回	48名
幼児親子向け野外活動体験事業	2回	53名
専門家協働事業	1回	29名
ボランティアスタッフ育成事業	随時	90名
フェスティバル事業	1回	6,551名
広報プレスリリース	随時	フォロワー数 Instagram4,422名 Facebook2,152名 R8.3月末時点 昨年度比較1,000人増加
アウトリーチ事業	7回	1,687名

野外活動の普及を目的とした初心者向けアウトドア体験事業や昆虫をテーマにした専門家協働事業のほか、幼児親子向け事業「野あそびチルドレン」を実施し、様々な層をターゲットに事業を展開することができた。また広報についてはアウトドアショップに協力を依頼するなど、様々な層にアプローチができるよう努めた。

メッセージボードや生き物発見プログラムを通して利用者同士の「気づき」や「発見した事」などの情報をメッセージにて交流できる空間づくりを行った。

▽ 自然体験活動に関する調査研究、資料の収集及び提供に関する業務

事業名	回数等(回)	参加人数(人)
情報交流事業	随時	気づきと学びプログラム提供事業にてカウント
調査・研究	夏・冬	モニタリング400件

利用者ニーズの把握のほか、既存物品の状態を確認し、提供物品を新たに追加するなど新規入替を行う事でサービスの向上を図ることができた。

▽ その他自然の村の設置目的を達成するために必要な業務

事業名	回数等(回)	参加人数(人)
野外活動物品等提供業務	随時	随時

アンケート等からニーズに合った物品の更新を行い、安定した物品供給の維持に努めている。

(5)施設利用に関する業務

▽ 利用件数等

		R6年度実績	R7年度計画	R7年度実績	
コテージ	件数(件)	2,628	2,750	2,523	
	人数(人)	9,013	13,000	8,128	
	稼働率(%)	38.8%	41.0%	39.1%	
テントハウス	件数(件)	1,495	1,600	1,201	
	人数(人)	5,153	7,000	4,044	
	稼働率(%)	44.1%	47.7%	37.2%	
テントサイト	普通	件数(件)	1,866	2,000	1,461
		人数(人)	3,521	4,500	2,601
		稼働率(%)	25.0%	27.1%	20.6%
	特別	件数(件)	566	650	606
		人数(人)	967	1,500	801
		稼働率(%)	48.4%	48.5%	46.9%

▽ 不承認 0件、 取消し 0件、 減免 200件、 還付 0件

▽ 利用促進の取組

利用者はリピーターも多く、土曜日、休日、小中学校の夏休み期間は利用が多かったものの、小中学校夏季休業期間の天候不良やアウトドア需要の平常化、更に11月のヒグマ敷地内目撃や市街地におけるヒグマの出没などの影響で利用低下となった。地域主催事業や学校などへのアウトリーチ事業を展開することで、現在利用していない層に向けて野外活動の促進を図るとともに、SNSを活用して施設のPR活動を行い利用促進を図った。

(6)付随業務

▽ 広報業務

広報戦略を見直し、施設外における地域の大規模なイベント時におけるSNSとの連動企画を実施したことで、昨年度から約1000名のSNSフォロワーを増加することができた。また、札幌岳をはじめとする登山のベースとしての利用があったため、札幌市内におけるアウトドアショップに登山愛好家に特化したチラシを配架する利用促進に努めた。

▽ 引継ぎ業務

前回から継続指定のため、引継ぎ業務なし

ターゲット層を絞った広報を行うとともに、野生動物や自然環境などの日常の様子をSNS発信するなど定期的に更新することで、普段利用しない層に向けて自然の村の魅力を積極的に発信した。

A	B	C	D
現在の最も有効な広報手法の一つとして挙げられるSNSのフォロワー数が、前年比1,000人増(2割弱の増加)となり、各種イベントがより多くの人の目に届いていることは、評価できる。			

2 自主事業その他

▽ 自主事業

事業名	回数等(回)	参加人数(人)
札幌市児童会館・千歳市児童館連携事業	8	249
地元地域連携事業	22	2,727
企業等連携事業	3	109
清涼飲料水等の販売	通年	

児童会館利用者を対象に普段ではできない野外活動体験を実施した。地元地域連携事業や企業等連携事業では定山溪観光協会主催事業のコラボレーション事業を通して定山溪地区の活性化を図ったほか、アウトドア関係の企業と連携し、施設をPRすることができた。

定山溪観光協会主催イベントへの参加で地元地域連携事業の参加者数を大きく伸ばしたことは評価できる。一方で児童会館連携事業については、R5年度からR6年度で減少した回数・参加者数が、さらに微減する結果となっているので、野外体験の更なる普及のため引き続き取り組んでほしい。

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

第三者委託及び備品消耗品の購入、施設や備品の修繕など内容に合わせて専門技術、資格及び設備等を有する札幌市内の企業を積極的に活用した。また、事業や広報活動など札幌市内との企業や団体と協力し運営した。

地元連携や企業連携を通して、新たに市内の企業を活用することができた。

委託先、物品等購入においては、市内企業の選定に努めている。

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	チェックイン時に利用申し込み件数1件に対し1枚の紙面でのアンケートを配布し、チェックアウト時に回収を行った。 アンケート回収数: 2,041件
結果概要	・施設の管理状態の満足度は96% ・施設の利用料金の満足度は97.4% ・職員の対応の満足度は98.6% ・総合的な満足度は99.3%と目標である98%を上回った。
利用者からの意見・要望とその対応	電話や受付時の職員の親切な対応や施設の清掃状況について概ね評価が高かった。体験プログラムについても参加したグループからは満足度の高い結果となったが、各種プログラムを知らなかったという意見もあったため利用者への周知を行った。また自然環境の中ではあるものの虫の多さにご意見をいただいたため、利用前や休業日の施設点検時には職員間で情報共有をし、駆除などの対応を行った。

各項目ともに高評価が得られた。清掃員や警備員とアンケート結果を共有しよりよい環境づくりに努めている。ご意見については速やかに共有・対策を講じた。また、アンケート結果については施設内に掲示し、積極的な情報公開を図った。

A	B	C	D

毎年度満足度が高水準であるのも、アンケートで得られた要望に対し、真摯かつ早急に対応し、その結果を全て掲示し周知しているところにある。今後もこの取組を維持しつつ、更なる満足度向上に努めていただきたい。

4 収支状況

▽ 収支

項目	R7年度計画	R7年度決算	差(決算-計画)
収入	109,064	105,798	▲ 3,266
指定管理業務収入	108,230	104,910	▲ 3,320
指定管理費	79,014	80,706	1,692
利用料金	23,951	19,573	▲ 4,378
その他	5,265	4,631	▲ 634
自主事業収入	834	888	54
支出	116,339	106,507	▲ 9,832
指定管理業務支出	116,140	106,263	▲ 9,877
自主事業支出	199	244	45
収入-支出	▲ 7,275	▲ 709	6,566
利益還元	0	0	0
法人税等	0	0	0
純利益	▲ 7,275	▲ 709	6,566

小学校夏休み期間の天候不良とアウトドア需要の平常化のほか、11月の敷地内におけるヒグマ目撃後の施設利用の休止及びその後の利用低下が響き、利用料金は計画時の目標には届かなかったが、一方で積雪量が少なかったことによる除雪業務の委託費の業務圧縮や収入状況を鑑み予定していたシステム改修を先送りしたことなどによる費用を圧縮するなど予算を柔軟にコントロールし、収支差を可能な限り最小に留めることができた。

A	B	C	D

天候不良や施設利用休止をせざるを得ない事情が発生し、利用料金収入が計画よりかなり下回ったものの、他の費用を抑え、損益を最小限にできたことは評価できる。今後も引き続き安定した施設運営を継続していただきたい。

▽ 説明

収入については、11月のヒグマ敷地内目撃に伴う施設利用休止及び、小中学校夏休み期間の天候不良、アウトドア需要の平常化によって計画時よりも施設の利用が下がったため、減少した。支出については、物価高騰による消耗品費と経年劣化による施設不具合に対する修繕費が予定より上回ったが、積雪量が少なかったことによる除雪業務の委託費の費用圧縮や予定していた予約システムの改修を収入状況を見据えて先送りし、費用を圧縮している。

＜確認項目＞ ※評価項目ではありません。			
▽ 安定経営能力の維持 電子化による紙資源に伴う各種コストを低下させるとともに、労働時間・職場環境に配慮し、職員の働きやすい環境を目指した。各事業実施時には、コスト意識の醸成を図りながら、収支バランス等を適時把握することで、将来にわたって安定経営能力を維持することが出来るよう努めた。		適	不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ・個人情報の取扱いについては、札幌市個人情報保護条例および当財団個人情報保護規程に基づき適正に処理を行っている。また、個人情報の開示の要望はなし。 ・情報公開条例に基づき適正に対応を行っている。 ・札幌市行政手続条例に基づき適正に処理を行っている。 ・札幌市暴力団の排除の推進に関する条例に基づき、暴力団が利することにならないよう、第三者委託および物品購入等において、暴力団および暴力団関係事業者と契約しないよう積極的に取り組んだ。		適	不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	次年度以降の重点取組事項
「野外教育施設として求められる新たな価値の創造と実現」を目指し、セルフプログラムの提供や野外体験活動普及のための各種事業を実施した。また、施設外における他企業や地域団体との協働事業を積極的に展開し、利用者の新規獲得及び野外活動普及のため、重点的に実施した。 日々の点検においては、不具合箇所等を把握し、所管部局と綿密に情報共有を図りながら修繕を進めることで、シャワー設備などの大型の修繕を実施することができた。 ヒグマ対策では、市内出没頻度の高まりを受け、職員によるヒグマ対策訓練を実施したことで、実際に敷地内でヒグマが目撃された際に、利用者及び職員の安全を確保しながら対処し、その後の対策においても金属製のゲート及び電気柵の追加設置などを行い、安心・安全な施設を目指すことができた。	施設の利用を促進するため、野生動物対策について公開し「安全・安心」である施設であることや、自然豊かな環境など施設の魅力などをホームページやSNSを通して発信するとともに、リアルタイムでの空き状況や利用方法の積極的発信を行う。また、多様なスタイルの提案をすることで、新たな層の利用促進を図る。 未だ児童の体験活動の不足が社会的課題として挙げられるため、野外教育施設として積極的に取り組み、生きる力を向上させる事業を実施して行くとともに、その活動を支える人材の育成も併せて行っていく。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
管理面では、施設・設備維持管理について日常点検や定期的な点検を確実に行うことにより、故障や修繕必要箇所を軽微な段階で見えてきている。また、利用者アンケートでも評価が高い清掃業務では、第三者委託先業者との体制が整っており、清潔な環境が維持されている。 事業面においては、多くの事業について、回数や人数が前年度よりの増加したが、前年度から数値を落とした事業、目標の半分以上の人数にとどまった事業もあったため、来年度は前年度実績値や目標値を超えることができるよう引き続き取り組んでいただきたい。 ヒグマ対策では、施設内でのヒグマ目撃があったが、その際利用者安全確保を迅速かつ適切に行い、日頃の訓練が生かされた。また、一定期間の施設利用休止を余儀なくされたが、その間に電気柵や電圧測定機器の更新などより一層の対策を施し安全面が強化された。 一方で、利用者数は施設利用休止期間を除いても利用率が減少傾向にあるため、平日及び閑散期の利用率向上を目指し、集客に繋がる分析をするなど、今後も課題解決へ向け取り組んでいただきたい。	